九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[020]ICER Newsletter

https://doi.org/10.15017/1807637

出版情報：ICER Newsletter. 20, pp.1-, 2016-04. 九州大学附属図書館付設教材開発センター
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

No.20 2016.4

九州大学附属図書館付設教材開発センターだより

ICER Newsletter

教材開発センターの新たな取り組み ～MOOC 反転授業の実施報告～

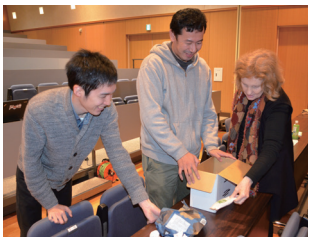
MOOC「Global Social Archaeology : expanded edition」受講結果！

本年度は教材開発センターの新たな取り組みとして『反転授業』を九州大学西新プラザで実施しました。まず、岡村耕二先生の「個人と組織のための最先端サイバーセキュリティ入門」が 1 月 30 日に開催され 5 名の参加者がありました。前半の岡村先生のご講義では、MOOC の復習と新しいサイバーセキュリティの情報提供があり、後半では参加者がグループに分かれ、岡村先生を囲み和やかな雰囲気でディスカッションが行なわれました。


▲岡村先生を囲みグループディスカッション

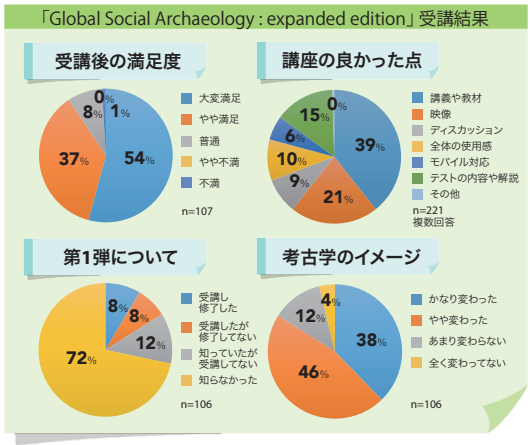
続いて「Global Social Archaeology : expanded edition」が 2 月 6 日に開催され 3 名の参加者がありました。前半でクレア・スミス先生が「Archaeology and Popular Culture」について、後半では溝口孝司先生が「考古学を通じて過去と未来を往還する」のタイトルでご講義をされました。その後、ワークショップが行なわれ実習を通して、考古学とはどのような学問なのかを知る良い機会となりました。両講座とも授業後のアンケート結果では、受講者の満足度が非常に高いことが示されました。


▲溝口先生とクレア先生からのご挨拶


▲一風変わった考古学ワークショップ

MOOC は遠隔教育の一種ですが、対面型の『反転授業』を取り入れることで、学習者と講師、及び学習者間のすばらしい出会いの場となり、対面でなくては経験できない触れ合いの場となりました。

「Global Social Archaeology : expanded edition」は 1 月 12 日に開講し、2 月 16 日に成功裏に終了しました。今回は 392 名の受講登録者があり、うち 71 名が海外からの参加者でした。基本的には国内向けの MOOC プラットフォームですが、講義は英語で行なわれ、日本語と英語の字幕を装備し、国際的な学習の場となりました。修了率は 32%で、昨年の第 1 弾の 28%をさらに上回る好結果を記録しました。

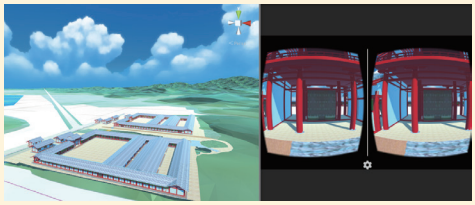


【安西 弥生 准教授】

講義紹介「Mobile Application Development Tutorial」

昨年度に引き続き、今年度の後期 基幹教育院で「Mobile Application Development Tutorial」というモバイルアプリを開発する講義を担当させていただきます。講義の内容としては、モバイル端末の各種センサー（タッチセンサー, 加速度センサー, GPS 等）にフォーカスを当て、それらのセンサーを使ったアプリを開発していきます。なお、この講義はすべて英語で行われます。


▲PBL 形式の
ヴァーチャルリアリティアプリ
体験の様子（於 鴻臚館跡展示館）


▲鴻臚館のヴァーチャルリアリティアプリ開発画面

昨年度と同様に、講義の後半には福岡市と「福岡城市民の会」の方々と連携し、福岡城・鴻臚館に訪れる観光者用のアプリを開発する PBL（Project-based Learning）形式の講義も予定しています。昨年度の PBL の講義では、鴻臚館の様子を体験できるヴァーチャルリアリティアプリを開発しました。

本年度も、様々なセンサーを利用したモバイルアプリを開発していく予定ですので、モバイルアプリ開発に興味のある方は、是非ご受講ください！

【金子 晃介 助教】

M2B（みつば）学習支援システムの利用申込み方法

M2B システムのご利用に際し、以下の場合は下記 URL「M2B システム利用申込」よりお申し込みください。
URL ▶ https://moodle.artsci.kyushu-u.ac.jp/mod/questionnaire/view.php?id=8701

Moodle H28 年度前期より全ての科目で予めコースが作成されますが、一部コースが用意されないケースがあります。moodle ログイン後、担当科目のコースがマイコースにない場合、もしくは、講義以外でコース作成をご希望される場合はお申し込みください。

Mahara 先生が講義中に気づいたことを各講義ごとに日誌（ティーチングポートフォリオ）として記録して頂けます。また、講義を履修する学生に日誌（ラーニングポートフォリオ）を書かせて、その内容を担当教員と共有する場合はお申し込みください。

BookLooper 講義で利用するスライド等の電子教材（PDF）をご提供ください。BookLooper に登録された電子教材は、九州大学教職員・学生すべてに公開されます。Moodle システムと併用する事で、学生の予習状況等を把握することができます。

Bb9 から Moodle への移行について

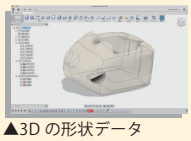
Bb9 の本運用は 2016 年 3 月末日で終了しました。
Web 学習システムを利用される場合は Moodle へ移行してください。
▼移行手順はこちら
http://lac.kyushu-u.ac.jp/m2b/index.html
※上記ページ内の 1-2-2 教師用「BB9 から Moodle へのコース移行手順について」をご参照ください。

【緒方 広明 教授（協力教員）】

次世代の教材開発を支える技術 ～デスクトップ 3Dプリンター～

今回は小型で手軽に扱えるデスクトップ 3Dプリンター「Afinia H480」を紹介させていただきます。紙のプリンターでは、印刷したいデジタルデータ（ワードやエクセル等）をプリンターに送り紙面に文字や図を出力します。同様に、3Dプリンターでは造形したいデジタルデータ（3Dの形状データ等）を 3Dプリンターに送り、樹脂を積層し造形物を出力します。3Dの形状データを作成する方法としては、以前この特集でも紹介させていただいた 3D スキャナーを使い形状をスキャンする方法や、CAD や DCC ツールと呼ばれるソフトウェアを使い形状をデザインする方法があります。


▲Afinia H480 と出力された造形物


▲3D の形状データ

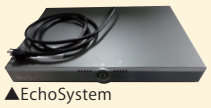
この Afinia H480 は本年度から伊都図書館で、紙のプリンターと同様に全学生が自由に使える予定です。体験してみたい方は、是非、伊都図書館に足を運んでみてください！

【金子 晃介 助教】

講義収録配信システムの貸し出し

教材開発センターでは、先生方の講義を担当スタッフが撮影、編集し YouTube で公開しておりますが、誰でも簡単に講義を収録・配信できる機材（EchoSystem と Winnov Cbox）の貸し出しも行っております。

両システムとも講義収録からコンテンツの作成・配信までを自動化し、ICT 活用教育の実現が可能となります。Winnov Cbox では録画をスタートするだけで収録が開始がされ、停止すると同時にコンテンツが出来上がります。


▲EchoSystem

機材の利用によって手軽で迅速にコンテンツ化を行え、先生は講義の見直しができ、学生も視聴環境を選ばず、いつでもどこでも講義を視聴することができます。それにより、先生・学生双方の教育の質向上が期待できるようになります。貸し出しをご希望の方は、下記 URL よりお申し込みください。


▲Winnov Cbox

URL ▶ http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/lect_cast

【上野 敦子（テクニカルスタッフ）】

▼教材開発センターでは下記の機材を貸し出しています。先生方の講義・研究資料の作成等にお使いください。

～2D/3D 教材開発システム貸し出しについて～
お問い合わせ、機材の仕様については、こちらからご確認ください。
URL ▶ http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/2d_3d

① デジタル顕微鏡　② 光学式モーションキャプチャー装置　③ 3D スキャナー
④ 3D プリンター　⑤ ハイスピードカメラ　⑥ 視線追尾装置

退任する協力教員からのご挨拶


医学研究院
教授　吉田 素文

3月末に九州大学を辞し、4月から関東の地で新規医学部設置に携わっています。教材開発センターの思い出を3つ。1つ目は、電子教材著作権講習会です。5つのキャンパスを巡り、様々な部局の教員やスタッフ、大学院生と悩みを分かち合うことができました。2つ目は、医学部と理工系の学部・大学院との間で、学生協働型の教材開発プロジェクトに携わったことです。学生による学会発表や継続プロジェクトも楽しみです（詳しくはウェブで）。3つ目は、医療系統合教育研究センターと教材開発センターの組織間連携を始動できたことです。以上の活動を通して、多くの部局の先生方、学生達と一緒に学べたことは、私にとって大きな心の財産になりました。ここに厚く御礼申し上げます。


情報基盤研究開発センター
准教授　井上 仁

教材開発センターが設置された2011年4月に協力教員として着任して以来5年の間教材作成の支援をさせていただきましたが、2016年3月をもちまして九州大学を退職しました。在任中はWeb学習システムの講習会やYouTube、iTunesU、OCWによる教育情報の発信に携わってきました。

この5年間を振り返ってみますと、センター発足時は認知度が低かったのですが、最近ではスタッフの数も増え支援する内容も充実し高度になってきました。といいましても学内におけるeラーニングや教材の電子化・オープン化はまだまだです。今後ともぜひ教材開発センターを活用していただければと思います。

電子教材著作権講習会のご案内

お申し込み・詳細はこちら ▶ https://www.icer.kyushu-u.ac.jp/topics_20160308

馬出　5月 9日（月）15:00～16:30　総合研究棟 2 階　201セミナー室
箱崎　5月10日（火）15:00～16:30　中央図書館 第 2 情報サロン
伊都　5月11日（水）15:00～16:30　伊都図書館 2 階 情報サロン

https://twitter.com/ICER_KyushuUniv
https://www.facebook.com/KyushuUniversityICER
編集・発行：九州大学附属図書館付設教材開発センター　info@icer.kyushu-u.ac.jp
Copyright(C) 2013 Innovation Center for Educational Resource. All rights reserved.